と稱し稍々繁盛なり其他由良、福良の兩港ありて皆な船舶の碇繫に便なり

紀伊の苫ヶ島（又友島と稱す、地島、沖島の總稱なり）は島内巖石の奇勝多く又潮岬の東に大島あり周回四里餘、阿波に島田、大毛山、高島、伊島、大島等あり讃岐の小豆島（周回三十里廿三町余）は播磨灘の西に位し草加部灣あり船舶の碇泊に便なり其他廣島、豊島、直島等其數頗る多し伊豫の興居島は島峯屹立して恰も富士山の如し故に伊豫の小富士の稱あり此島は周回六里餘にして其他弓削島（周回五里余）等の如き島嶼許多あり

（湖沼及瀑布）本道には大なる湖沼なく唯讃岐の北條池は稍々大にして周回三里八丁あり其他阿波の海老池、讃岐の神内池、松尾池、三谷池、城池、一谷池、岩瀬池、伊豫の鹿子池等皆周回一里余に過ぎず

瀑布の重なるものは紀伊の那智瀑、百間瀑、伊豫の高瀑等なり那智瀑は那智山に懸り本邦瀑布中第一の壯觀にして其高さ八十四丈、幅十八間餘あり百間瀑は高さ六十丈餘、下流は熊野川なり高瀑は千足山に在り高さ百三十丈、幅五十間にして是亦壯觀なり

（温泉）本道中温泉の著名なるものは紀伊の湯の峯鑛泉、伊豫の道後温泉等なり湯の峯鑛泉は崇神天皇の時發見せられ天皇屢々此地に行幸し玉ひしと云ふ故を以て今日に至るまで浴客頗る多し、道後温泉は十八町許を隔てたる温泉岳より陰筧を以て浴場に導けり此温泉も亦征昔天皇皇子の行幸ありしこと一再ならずと云ふ此地最も有名なるを以て年々浴客萬を以て算ふ

（都邑）和歌山市は和歌山縣紀伊に在り南は和歌浦に臨み北は紀の川を帶び商況旺盛にして市街の繁華なること本道中第一と稱す

●徳島市は徳嶋縣阿波に在り其地古野川の南岸に位し商船常に輻輳し商況頗る盛んにして四國第一の都市なり

●松山市は愛媛縣伊豫に在り市街繁盛にして縣廳あり兵營あり附近に道後温泉あり此地三津濱を距ること一里十七町許なり

●高知市は高知縣土佐に在り其地土佐の南部に位し海に接近して形勢頗る善く運輸至便 商況隆盛、市街頗る繁盛なり

●高松は讃岐國第一の都會にして松平氏の舊藩地なり女木、男木、真島の諸島其前に連る港内水淺しと雖も漁船帆船の寄泊するもの多く碧波青巒相映し風光極めて佳なり其大阪を距る七十五海里、七時間餘にして達すべし（大阪商船會社馬關線寄港の海里及び速力なり以下之に倣ふ）

●多度津は讃岐に在りて金刀比羅宮に詣る者は此地に上陸するを至便

とす此地は漁船の出入間斷なく煤烟空を蔽ひ漁笛埠頭に響く實に繁華の一要港なり丘巒あり硯岡と云ふ之れに登れば筆の海は脚底に收り盤飽の群島は點々指掌に歸し眺望甚だ佳なり其大阪を距る九十四海里、九時間餘にして達すべし

●丸亀は讃岐に在り高松に亞ぐ一都會にして第五師團丸亀備成あり

其他紀伊に新宮、湯淺、田邊、淡路に由良、阿波に鳴田、富岡、撫養港、伊豫に三津、今治、宇和島、土佐に中村等の名邑あり

（名所、舊蹟、神社、佛閣）紀伊の和歌浦は一に明光浦と稱し風致閑雅にして本邦の三景に亞ぐべき所なり（明光浦の名は往昔聖武天皇行幸の際賜りしものなりと云ふ）

●金剛峯寺は紀伊の高野山に在り僧空海始めて眞言宗を唱へたる所なり其他紀伊には紀三井寺、粉河寺及び日高の道成寺等の名刹あり

淡路に淳仁天皇（淡路廢帝）遷幸の行宮趾あり 阿波に土御門天皇の遷幸趾

あり

●白峯は讃岐の丸亀を距る東五里にして一に綾の松山と云ふ山上に崇徳天皇の御陵あり土人之を御智の御所と稱し廟舍壯麗なり

●屋島は讃岐高松の東北三十町八栗山の西麓にありて庵治村と相對す其間を壇浦と云ひ其岬角を長崎と云ふ此地は著名なる古戰場にして元暦元年、平宗盛が安徳天皇を奉じて行宮を經營したる處なり行宮の跡今尚ほ存し行客をして坐ろに懷古の情を起さしむ其海上を望めば大島、鎧島、兜島等ありて頗る風景に富めり

●金刀比羅神社は讃岐の象頭山(琴平山)腹に在りて(多度津を距る三里餘、毎日滝車二十餘回の往復あり)正殿に大物主命、相殿に崇徳天皇を奉祀す萬治年間の造營は金銀珠玉を鏤め燦然たる社殿なりしが明治十一年に至り舊模を更め毫も彩色を用ゐず悉く白木の良材

を以を造營せられ屋上は檜皮葺にして社殿の正面上には金の菊章を掲げ輝々燦々人目を眩射せり其威靈夙に四方に聞へ世人の頗る崇敬する所にして賽客の諸國より來る者年に其幾萬なるを知らず(琴平町は象頭山麓の一市街にして丸亀、多度津を距る各三里旅客常に絶にず極めて繁盛なり)(大祭日は三月、六月、十月にして就中十月十日は當社第一の神事なり)

●善通寺は多度津の南一里廿町に在りて弘法大師が其伽藍に天竺八塔の土を敷て建立したりと傳ふ五層の高塔峨々として聳へ彫刻古雅、寺内清淨なり此地は七十五番の札所にして弘法大師誕生の地なり、而して讃岐鐵道の停車場より八町の西に在り

●高松城は一に玉藻の城と云ふ天正十五年生駒雅樂頭近矩の築く所にして松平氏此地に封ぜらるゝに及び尚は其居城と爲し儼として今に存せり之を海上より望めば粉壁碧波に映じ最も風致あり

栗林公園は高松城を距る南三十四町敕使村に在り面積四萬八千九百四十六坪五合、規模寛曠壯麗なり是れ松平氏が幕府の吹上苑に擬したる別業にして亭を其四方に設け掬月と名づく後には山を負ひ前には池を穿つ其形琵琶湖に模し沿岸には五十三驛を寫す池中に楓嶼、杜鵑花嶼ありて鯉鮒群を爲し修竹ありて蛍玉の聲を聞き青松鐵蕉ありて翠色掬すべく淙々耳を洗ふの噴泉あり磊磈目を驚かすの奇石ありて四時の景物一としも具はらざるなし其風趣の閑雅幽邃なる遊人をして徜徉顧望去る能はざらしむ

〔沿革〕本道の沿革を按ずるに上古は四ヶ國にして文武天皇の朝に至り紀伊以下六國を隸屬せしむ天慶年間藤原純友叛して都邑を掠奪し等で誅に伏す保元の亂、崇德天皇を讃岐に遷す後平宗盛、安德天皇を奉じて屋島に行宮を經營し承久の亂、土御門天皇を土佐に遷し

尋で阿波に遷す天正年間長曾我部元親土佐に在り豊臣秀吉之を征して其地を奪ひ小早川、加藤、蜂須賀、福島等の諸氏を分封す德川氏に至り之を變更し明治維新に及び藩を置き後之を廢して現今の縣を置けり

〔鐵道〕本道には讃岐鐵道線路あり其驛名、哩程及び賃金は左の如し、但し左に掲ぐる賃金は下等賃金なり而して中等賃金は下等の一倍半、上等賃金は下等の二倍なりとす

又公衆電報は琴平停車場に於て取扱ふ

		(丸亀より)
丸亀		
多度津	二哩九十二鎖	三錢
善通寺	六哩七十五鎖	八錢
琴平	十哩十五鎖	十錢

〔航路〕本道沿岸に於ける大阪商船會社瀧船の航路及び旅客乘船賃

は左の如し

洲本假屋間航路及乘船賃

假屋	志築	洲本
一〇七四	一〇七四	
一五〇七	一〇七四	

讃岐鐵道の汽車に搭する旅客の參考表

丸亀及多度津港	下り	上り
滊船	毎日 午前八、〇〇ノ間	毎日 午後九、〇〇ノ間
滊船	毎日 二、〇〇ノ間	毎日 三、〇〇ノ間

下等船賃	
大阪へ	五〇
神戸へ	五〇
玉島へ	四五
尾道へ	四五
廣島へ	五〇
門司へ	一、〇〇

高松長濱間航路及乘船賃

高松	多度津	新居濱	今治	三ツ濱	長濱
三五					
六〇	四五	一五	三〇	三〇	二〇
六〇	四五	一五	三〇	三〇	
八五	七〇	三〇	五〇		
一、〇〇	八〇	五〇			

和歌山大阪間航路及乘船賃

和歌山	大阪
二四	
三六	
五四	

徳島大阪間航路及乘船賃

徳島	大阪
五〇	
七五	
一、二〇	

前表に掲ぐるものは下等乘船賃なり但し厘位は切り上げて錢位に止む中等乘船賃は下等の五割を増し上等は中等の五割を増す又別室上等は渾て中等の一倍とす表中三行に記したる乘船賃は右は下等中は中等、左は上等なり

〔人口及風俗〕本道の人口は三百六十二萬四千二百八十三にして一方里の人口二千三百二十一に該當せり

本道の風俗は概ね三樣に分れ紀伊淡路は樸直にして阿波、讃岐は寛裕に伊豫は淳直に土佐は樸強なり

〔氣候及地味〕本道の氣候は山陽道に比して一層温暖なり然れども山間の地方は寒威凜烈なり地味は紀伊の東北端を除くの外、低地は概ね肥沃にして耕作に適せり而して全道の田畑は廿二萬三千五百餘町あり

〔鑛山及物産〕本道の鑛山は紀伊の伊都郡、阿波の名東、那賀兩郡、土佐の幡多、土佐、安藝三郡、及び伊豫の別子に銅坑あり就中別子銅山は産出多し又紀伊東牟婁郡、阿波の勝浦郡、及び讃岐の小豆島に石炭坑あり伊豫の浮穴新居兩郡、土佐の幡多郡に「アンチモニー」坑あり其他伊豫に蠟石及び温石坑、淡路に陶土坑あり

本道の物産中著名なるものは紀伊の密柑、紀州ネル、高野紙、木材、淡路の綿布、漆器、伊賀野燒、阿波の藍玉、阿波綱、讃岐の砂糖、保多縞、食鹽、伊豫の銅、松原縞、土佐の紙、珊瑚等にして本道に於ける砂糖の産出は本邦中第一位を占む海産物の重なるものは紀伊の熊野浦、土佐沖の鯨及び土佐の鰹節等なり

西海道

〔位置及疆域〕西海道は本土及び四國の西南に位し東經百二十九度四十六分より百三十二度十八分に至り北緯三十一度一分より三十三度五十八分二十五秒に至る其地東は太平洋に臨み東北は海峽を以て山陽南海兩道に對し西北の一部は日本海に面す

〔地勢及面積〕本道の形狀は南北に長く東西に短き脈にして筑後川以北に在るものは東西に連り以南に在るものは南北に亘る而して其餘脈海に延て沖繩諸島に及へり又筑後川下流の沿岸及び肥後の西北部は總て低地なり此全面積二千六百十七方里餘あり

〔山嶽〕本道に於ける著名の山嶽は筑前の幾んど中央部に寶滿山（高二千餘尺）あり豊後の西南境に英彦山（又彦山と稱す、高三千三百余尺）あり豊前の西南境に黑岳（高六千七百尺）、其西に大船山（高二千七百尺）あり又肥後に跨れる扇鼻山（高四千六百余尺）、日向に連れる祖母岳（高五千八百余尺）あり肥後の東北隅に涌蓋山（高四千八

尺)あり日向の中央部に法華岳(高三千六百尺)、南部に小松山(高四千尺)あり薩摩の北部に紫尾山あり其他筑後の高良山、御前嶽等なり

又火山の重なるものは豐後の鶴見山(高六千尺)、肥前島原半島の中央に聳ゆる温泉岳(高四千九百尺)、肥後の東北部に聳てる阿蘇山(高六千二百五十尺)、日向の西南に屹立たる霧島山(高五千三百尺)、大隅の櫻島に櫻島岳(山上に沼地あり)薩摩の南部に開門山(高三千尺)等なり

〔河流〕本道に於ける主要なる河流中筑後川は筑紫二郎又千年川と稱し源を豐後及び肥後に發し許多の細流を合して筑後の北境を流れ漸く巨流と爲り遂に筑紫海に注ぐ其流程三十五里餘、是れ本道第一の大河なり大野川(流程三十四里余)は源を豐後に發し東北流して海に入り日田川は西流して筑後川の上流を爲せり白川は二源あり肥後の阿蘇山近傍に發し緑川(流程二十一里)は源を阿蘇山の東南に發し共に海に入る球磨川

は有名の急流にして下流十六里間は舟筏を通ずるを得べし美々津(又耳川と云ふ)、五箇瀬、一瀬、大淀(又赤江川と云ふ)、の四川は日向に在り其流程共に三十里に垂んとす川内川は源を日向に發し大隅、薩摩兩國を貫流して遂に海に注ぐ其流程四十六里餘、其他筑前の遠賀川(流程十三里)、豐後の大分川(流程十三里)、肥後の菊池川(又高瀬川と稱す流程十九里)等あり

〔海岸及港灣〕九州の西海岸は屈曲頗る多く隨て良港に乏しからず今其港灣の重なるものは筑前に博多、若松の兩港筑後の若津港豐前の門司港、豐後の別府、杵築、佐賀關三港、肥前の長崎、島原、佐世保、唐津の四港、肥後の三角、百貫石兩港、日向の細島港、薩摩の鹿兒島、山川兩港等なり而して長崎港は本邦五港の一にして港内水深く能く大艦巨舶を入るゝに足る佐世保港は五軍港の一なり

又薩隅兩國間に鹿兒島灣あり

〔岬角及海峽〕本道の岬角中主要なるものは豐前の北隅に突出せる速鞆崎（又門司崎と稱す）あり其東に突出せるを部崎と云ふ豐後の地藏崎（又鼎崎と稱す）は伊豫の佐田岬と相對し舟行最も危險なる所なり日向の都井岬は突出すること三十餘町、筑前の鐘岬は玄海灘と響灘とを分ち其西南に志賀の砂嘴あり細く斗出すること三里にして其砂上に無數の靑松生し景色頗る佳なり大隅の佐多岬は南方に向て突出せり

海峽は豐前の部崎と長門赤間關との間を速鞆海峽と云ふ其西北に響灘及び玄界灘あり肥前の野母崎と天草との中間を天草灘と云ふ其東に早瀨海峽あり此海峽の內海を筑紫海と稱す速吸海峽と稱するは豐後の地藏岬と伊豫の佐田岬との間にして舟行最も危險なり

〔島嶼〕壹岐は肥前の西北に位する一島にして其面積八方里、周回三十五里、港灣多く其主要なるものを鄕野浦と稱す島內山脈多く平地

少なく都市を勝本と云ひ稍〻繁盛なり

對馬は壹岐の西北に位する二島（南を上島、北を下島と云ふ）にして其面積四十方里、島內山脈多く土壤瘠て耕作に適せず海岸は岬灣幷列し淺茅浦其處に在り而して上下二島間を大海越海峽と稱し河流の主なるものを佐護川と稱す都市嚴原は稍〻繁華にして滊船の出入あり此地長崎を距る百六海里、筑前の沿海には島嶼多し其大なるものを殘島、志賀島と共に周回二里餘、肥前の平戸島は周回四十三里餘此島は後宇多天皇の弘安四年元寇大舉して來りし所なり名邑を平戸と云ふ又生月、廣島、大島等の屬島あり其他中通、宇久、奈留久賀福江の五島あり琉球諸島は即ち沖繩縣の管轄に屬し首里は現今沖繩縣廳の所在地にして舊球球城あり市街淸潔宮殿、官衙等壯麗なり那覇は首里を距る西一里許本島有名の港なり此地東京を距る五百七十四里

〔湖沼及瀑布〕本道は湖沼の大なるものなく稍〻其名の著るゝものは筑前の鴨生田池（周回三里余）、薩摩の池田湖（周回五里許）、大隅の大浪池（周回二里許）、豊前の小倉池、肥後の立岡池、日向の御池等は皆一里餘の周回に過ぎず

本道に於ける瀑布の著名なるものは千丈瀑、椎谷瀑、清水瀑、白水瀑、松水瀑、松轟瀑等にして千丈瀑は筑前に在り高さ六十丈、幅三間餘頗る奇觀なり椎谷瀑は豊前に在り一を東椎谷瀑、一を西椎谷瀑と云ふ共に高さ十餘丈、幅五間許あり清水瀑は肥前に在り高さ三十五丈餘、幅七間許、白水瀑及び松水瀑は肥後に在り而して白水は高さ四十餘丈、幅七間餘あり松轟瀑は薩摩に在り高さ十八丈にして最も壯觀なり

〔温泉〕筑前に武藏、吉井、椎原、等の温泉あり此武藏温泉は天拜山麓に在りて天武天皇の時に發見せしものなりと云ふ筑後に船古屋冷泉あり近來瀛車の便あるを以て浴客多し肥前に柄崎礦泉小濱温泉岳等あり而して柄崎礦泉は神功皇后の時の發見に係れりと云ふ肥後の山鹿礦泉は熊本市を距る七里餘にして車馬を通ぜり故に浴客常に多し其他豊後の別府、濱洲兩温泉、大隅の硫黄谷、湯ノ尾、福山、宮ノ下の四温泉、薩摩の湯浦、金花兩温泉等あり

〔都邑〕福岡市は福岡縣筑前に在り而して福岡及び博多は一橋を以て市街を分ち福岡縣廳を福岡に置けり博多は黒田侯の舊城邑にして市街は東箱崎に至り西は福岡に接し陸には九州鐵道の停車場あり港には船舶輻輳し頗る繁盛なり又遊覽所は櫛田神社、承天寺、聖福寺、公園海水浴場等にして彼の元寇戰亂の遺跡なる石城、蒙古の首塚等近傍に在り旅店の重なるものは京屋、石田屋、松島屋等なり

●久留米市は筑後に在りて福岡縣に屬す舊有馬家の城市なり遊覽所は水天宮、篠神社、梅林寺、高山彦九郎の墳墓等あり此地九州鐵道の停車場あるを以て旅行上甚た便なり旅店は鹽屋、柳屋、松屋等あり

又柳川も共に繁盛の市街なり

●長崎市は長崎縣肥前に在り長崎縣廳を此に置けり其地丘陵環繞して一長灣を爲し灣内水深く五伊乃至十六伊に至るを以て船舶の碇繫に便なり此港は寛永十八年以來の貿易場にして外國人の居留地あり市街頗る繁盛なり

●佐賀市は佐賀縣肥前に在り鍋島侯の舊城下にして松原神社、神野の御茶屋等風景甚た善し加ふるに九州鐵道の停車場ありて頗る往來に便なり旅店は堺屋、一ッ屋、榮德屋等あり

●熊本市は熊本縣肥後に在り細川侯の舊城下にして彼の有名なる加藤

清正の築きし熊本城蹟には第六師團を置けり此地九州鐵道の停車場あるを以て旅行者の爲めに頗る便なり又遊覽すべき所は錦山神社、本妙寺、出水神社等にして重なる旅店は研屋、全支店、錦屋、越後屋等なり

●鹿兒島市は鹿兒島縣薩摩に在り島津侯の舊城下にして内海中の一灣に臨み船舶の碇泊に便なり故を以て船客の出入多く市街爲めに繁盛を極む加之のみならず前面に櫻島ありて風景頗る善し

豐前の門司は九州の咽喉にして海上纔かに二十町餘を隔てゝ長門の赤間關と相對す此地には和布刈神社、甲宗八幡宮、清瀧公園等の遊覽所少なからず重なる旅店は八坂、古賀文、石田、松延、川卯等なり

豐前の小倉は小笠原侯の舊城邑にして寺町なる永照寺は俗に九州本

山と稱する巨刹なり此地九州鐵道の停車場あり旅舍の重なるものは藤井、錢屋、廣田等とす而して中津も亦豐前の名邑にして小倉と共に繁華なり

其他豐後に大分、臼杵あり日向に宮崎、佐土原、高鍋、延岡等あり共に繁盛の市邑なり

〔名所、舊蹟、神社、佛閣〕筑前の香椎宮は神功皇后を祭る帆柱の化石は九州鐵道の線路なる香椎の停車場より十八町許の名島の海濱に在り、筑前の箱崎神社は九州鐵道の箱崎停車場の西隣に在り又箱崎松原千代の松原は風光極めて善し、太宰府天滿宮（筑前）は社殿壯麗にして眺望絶佳なり其他觀音寺、都府樓及び水城の古趾等あり皆九州鐵道二日市（筑前）停車場の近傍なり又筑後の發心山は櫻花を以て其名高く豐前の耶馬溪は兩崖奇石重疊し實に奇景なり其他筑前に太宰府、朝倉行宮肥前の原城、肥後の熊本城、豐前の宇佐神社、日向の高千穗及び三田井近傍の天の岩戸、高天原、天の浮橋等の古趾あり又肥後の五家は往昔平家の殘黨潛伏せし所なりと云ふ

〔沿革〕本道は上古天孫降臨の地にして全國に先て皇化に浴せり全島を筑紫州と稱し筑紫、豐、火、熊襲の四國に分たる景行天皇此地に熊襲を親征し玉ひ推古天皇の朝、太宰府を筑前に置き齊明天皇の朝、朝倉に行宮を設け聖武天皇に至りて太宰府を廢して鎭西府を置く是より本道を稱して鎭西と云ふ弘安四年元兵大擧して來る我兵之を鑿殺す北條氏の時鎭西府を廢して筑紫探題と更め足利尊氏の叛するや本道の諸州悉く之に應ず獨り菊池武光義兵を擧ぐるも遂に支ゆる能はず天正年間島津義久本道を征服す豐臣秀吉義久を伐て降し家臣を分封す其後幾多の變革を經て明治維新の際、藩を置き後廢して現

今の縣と爲す

〔鐵道〕本道には九州鐵道及豐州鐵道あり其驛名、里程及び賃金は左の如し、但し此に掲ぐる賃金は下等賃金なり而して中等賃金は下等の一倍半、上等賃金は下等の二倍(厘位は切上げ)とす

●九州鐵道

門司	(門司ヨリ)	三哩十鎖	四錢
大里		七哩三十鎖	八錢
小倉	(小倉ヨリ)	三哩廿五鎖	四錢
小倉		六哩六十鎖	八錢
城野		十一哩四鎖	十三錢
曽根		十四哩六十四鎖	十七錢
刈田	(門司ヨリ)	十四哩十四鎖	十六錢
行橋		十七哩六十鎖	二十錢
小倉			
黒崎			
折尾			

遠賀		二十哩廿一鎖	廿三錢
赤間		廿七哩六十一鎖	三十二錢
福間		三十四哩〇一鎖	四十錢
古賀		三十六哩三十一鎖	四十三錢
香椎		四十二哩二十一鎖	五十錢
箱崎		四十五哩五十一鎖	五十四錢
博多		四十七哩三十一鎖	五十六錢
雑餉隈		五十一哩七十一鎖	六十一錢
二日市		五十六哩四十一鎖	六十五錢
原田		五十九哩七十一鎖	六十九錢
鳥栖		六十四哩五十一鎖	七十五錢
田代		六十五哩七十一鎖	七十六錢
中原	(鳥栖ヨリ)	五哩	六錢
神崎		九哩五十鎖	十二錢
佐賀		十五哩三十鎖	十九錢
牛津		廿一哩十鎖	廿六錢
山口		廿四哩五十鎖	三十錢
北方		廿九哩十鎖	三十五錢

武雄	三十三哩	四十錢	
島栖	六十九哩七十一鎖	八十一錢	（門司ヨリ）
久米	七十七哩三十一鎖	九十錢	
留犬	八十一哩二十一鎖	九十五錢	
羽川	八十五哩四十一鎖	一圓	
矢部	九十哩三十二鎖	一圓六錢	
波瀬	九十八哩一鎖	一圓十五錢	
大牟田	百四哩一鎖	一圓廿二錢	
長洲	百八哩七十一鎖	一圓廿八錢	
高瀬	百十三哩五十一鎖	一圓三十四錢	
木葉	百十九哩十一鎖	一圓四十錢	
植木	百廿一哩三十一鎖	一圓四十三錢	
池田	百廿四哩三十六鎖	一圓四十六錢	
熊本	百廿八哩	一圓五十一錢	
河尻	百三十哩七十五鎖	一圓五十四錢	
宇土			
松橋			
行津			
豐			

●豐州鐵道

三哩二十二鎖	四錢	（行橋ヨリ）

油須原
香春
伊田

十哩五十四鎖　十三錢
十四哩七十一鎖　十八錢
十六哩四十鎖　二十錢

〔航路〕本道沿岸に於ける大坂商船會社（おほさかしやうせんくわいしやせん）汽船（きせん）の航路（かうろ）及び旅客乘船賃（りよかくじやうせんちん）は左の如し、

守江、細島間航路及乘船賃

	細島	土々呂	佐伯	臼杵	佐賀關	大分	別府	日出	守江
守江	一、〇五	一、〇五	一、〇〇	九五	九〇	七五	六五	五五	五〇
杵築	一、〇五	一、〇五	一、〇〇	九五	九〇	七五	六五	五五	五〇
日出	一〇	一〇	九〇	七五	七〇	五五	五〇	三五	
別府	一〇	一〇	九〇	七五	七〇	五五	五〇		
大分	一〇	一〇	九〇	七五	七〇	五五			
佐賀關	一〇	一〇	九〇	七五	七〇				
臼杵	九〇	九〇	七〇	五五					
佐伯	七〇	七〇	五〇						
土々呂	五〇	五〇							
細島									

門司、伊萬里間航路及乘船賃

	伊萬里	呼子	唐津	博多	門司
門司	九六〇〇	九四〇〇	一、一三〇	一、〇九〇	一、〇〇〇
博多	一、二五〇	一、一〇〇	一、〇〇〇	九〇〇	
唐津	三円	一、〇〇〇	九〇〇		
呼子	九〇〇	九〇〇			

門司、長洲間航路及乘船賃

門司		三〇	三五
中津	字ノ島	四五	五〇
		六八	七九
長洲		二八五	三五

細島沖縄間航路及乘船賃

細島		四五、〇〇	四五、〇〇	六、〇〇
油津		一、五〇	四、〇〇	五、〇〇
鹿児島		二、五〇	四、〇〇	
名瀬		二、〇〇		
沖縄				

前表に掲ぐるものは下等乗船賃なり但し厘位は切り上げて錢位に止む中等乗船賃は下等の五割を増し上等は中等の五割を増す又別室上等は渾て中等の一倍とす、表中三行に記したる乗船賃は右は下等、中は中等、左は上等なり

〔人口及風俗〕本道の人口は五百八十四万〇九百十一にして平均一方里の人口二千二百三十一に該當せり

筑前、肥前は其風俗輕薄巧智の傾きあり、筑後は質直にして豐前、

豐後大隅は陋樸の風あり又肥後、日向、薩摩は樸直にして勇悍義氣に富めり

〔氣候及地味〕本道の氣候は大抵四國と同じ然れども南北は稍々暖氣なり地味は豐後、大隅、薩摩地方肥瘠相交り對馬は全く薄瘠なるも其他の地方は皆肥沃なり特に肥前の佐賀近傍、肥後の西北部は最も肥沃にして農耕に適す而して全道の田畑は七十三萬二千餘町あり

〔鑛山及物産〕本道の鑛山は筑前の三池、肥前の高島、豐前の田川に石炭坑あり、豐後、日向、大隅、薩摩に金坑あり筑前、豐前、豐後、肥後、日向に銅坑あり、肥前、肥後、大隅、薩摩に硫黄坑あり薩摩に大理石坑あり肥前、肥後、豐前に陶土坑あり

物産は石炭の産出甚た多く其他豐後、肥前、肥後の牛馬、肥前の伊萬里燒、筑前、筑後、肥前及び薩摩の蠟、薩摩、大隅の煙草、肥後

の米穀、豊前の小倉織、筑前の博多織、筑後の久留米絣、壹岐の鯨、海膽、大豆、氷綿、竹器、鐵器、對馬の乾鮑、鯨、煙草、琉球の芭蕉布、泡盛酒、琉球絣等其主要なるものなり

北海道

〔位置及疆域〕北海道は帝國の最北部に位し東經百三十九度五十八分より百五十六度三十二分に至り北緯四十一度二十五分より五十度五十六分に至る其の地東南は太平洋に臨み北は宗谷海峽を隔てゝ露領「サガレン」島と相對し東北は「オロック」海に瀕し久留里海峽を以て露領「カムチヤツカ」に對し南は津輕海峽を隔てゝ本州に對す

〔地勢及面積〕本道は石狩、膽振、十勝、釧路、根室等に方十數里に亘る平原多し然れども全道概して山多く其山脈は總て中央部より四

方に分れて蜿蜒たり此全面積は本地五千〇五十六方里餘、千島千〇三十三方里餘あり

〔山嶽〕後方羊蹄山は後志の東南隅に峙ち其高さ六千五百三十尺餘、本道第一の高山にして熄火山なり其次の高山は石狩の石狩岳にして高さ六千尺余あり其他北見の北隅に宗谷山（高四千尺）あり天鹽に天鹽岳あり十勝に十勝岳あり石狩に夕張岳あり渡島の東部に在る内浦岳（又駒ケ岳と稱す）は噴火山にして寛永十七年大に爆發し焦土海を沒して大島を生せり以上の外惠山、大川嶽、膽振の有珠、釧路の雌峯等は皆火山なり

〔河流〕石狩川は本邦第一の巨流にして源を石狩の石狩岳に發し日本海に注ぐ其流程百六十七里、水深くして下流數十里の間は小蒸溟船を通ずるを得べし、天鹽川は源を十勝山及び石狩岳の北方に發し西

北流して海に入る其流程七十余里、大津は十勝に在り東南流して太平洋に注ぐ其流程四十四里余、下流二派となり共に太平洋に注ぐを十勝川と云ふ釧路川（又久壽里川と云ふ）は源を釧路に發し流程三十七里余太平洋に注入す以上の外北見に常呂川あり根室に西別川あり日高十勝の兩國境に新冠川等あり其流程皆二十六里以上三十里以下に過ぎず

〔海岸及港灣〕本道の海岸は屈曲出入頗る多しと雖も其大なるものに至りては甚だ少なく故に良港に乏し

箱館港は渡島に在り港内水深くして大艦巨舶を碇繫せしむるに便なり小樽港は後志に在り本道西海岸の良港にして滊船帆舶を寄泊するに足る室蘭港は深さ九十仞にして頗る良港と稱す石狩港は石狩に在り港内廣濶なるも水淺くして巨舶の碇繫に便ならず根室港は根室の東隅に位し千島に渡航するの要港にして港内に辨天島あり釧路の厚

岸港は仙鳳趾、醜丹二岬の間なる大灣中に在り本道東南部第一の良港と稱す其他渡島に江刺、福山、膽振に有珠、日高に幌泉、北見に網走等の諸港あり

渡島灣とは白神崎と鹽首岬とに擁せらるゝ處の一灣を云ひ内浦とは膽振の繪鞆崎と渡島と相對する間を云ふ又後志の辨慶崎と「オカモイ」崎に依りて壽津灣を爲し「タカシマ」岬は石狩に對し小樽灣を擁す其他釧路に仙鳳趾、醜丹兩岬の間なる厚岸灣あり、根室灣は納沙布岬と北見の知床岬と間なる一大灣なり

〔岬角及海峽〕本道中岬角の重なるものは渡島に惠山岬、鹽首岬、及び白神崎あり後志に白糸岬、辨慶崎、高島崎、醜丹崎あり膽振に繪鞆岬あり日高の南端に襟裳崎ありて太平洋に斗出す昔時は此地を以て口夷蝦及び奥蝦夷の境界と爲せり又釧路に仙鳳趾、醜丹二岬あり

根室に納沙布岬あり北見に知床岬、及宗谷岬あり宗谷岬は北方に突出し露領「サガレン」島と相對し「オコツク」海と日本海との境界を分てり

本道渡島の白神岬と東山道陸奥の龍飛崎との間を津輕海峽又は松前海峽と云ひ北見の宗谷岬と露領「サガレン」島の間を宗谷海峽と云ふ此處は日本海と「オコツク」海との潮流互に交錯する所にして峽間に七條の潮路あり宗谷の七潮と稱するは即ち是なり而して根室海峽は根室灣と千島の國後島との間を云ふ

〔島嶼〕千島諸島は根室の東北三百六十里の間に散在せる三十二個の總稱にして此諸島を以て太平洋と「オコツク」海とを區別せり其島嶼中重なるものは國後、擇捉、得撫、新知、舍丹、音丹、幌莚、占守の八島なり占守島は露領「カムチヤツカ」と相距ること僅々四里餘に

過ぎず而して諸島の內部は山岳重疊し海岸は斷岸絕壁の處多し、國後島は其半部根室灣に在りて島內に東佛湖（周圍三里許）其他周回二里以下の湖沼二個あり又山岳の最も高峻なるは爺洞山にして其山巔は常に白雪皚々たり、擇捉島は諸島中の最も大島にして東南海岸は斷岸絕壁削るが如く西北岸には數多の港灣あり島內には周回三里許の訪床湖と一里餘の湖沼二個あり又跡居屋山の東北海岸に五十丈餘の斷崖あり刺鬼別の瀑布之に懸る、得撫島は明和年間露人の始て移住せし處にして本島と擇捉島との間を擇捉海峽と稱す、新知島には良港あり此島と得撫島との間を風剌海峽と云ふ、占守島は千島諸島の最端にして露領「カムチヤツカ」と相接近す

〔湖沼及瀑布〕本道中湖沼の重なるものは北見の周回十八里許なる猿間湖あり根室に周回十五里餘の「フラレン」湖あり瞻振に周回十里餘

の洞爺湖あり其他釧路に阿寒湖、渡島に大沼、十勝に喜門沼、往牛沼、膽振に支笏湖、長都沼等ありて皆有名なり

瀑布の最も壯觀なるものは石狩嶽に懸れる石狩瀑あり溪流集りて六條の瀑布と爲り其二條は共に高さ百五十丈、幅六間餘にして其他四條は高さ三十丈、幅二間余に過ぎず

阿寒瀑は釧路に在り、阿寒川の流末激奔して瀑布を爲せるものなり、

剌鬼別瀑は千島の擇捉島に在り高さ五十丈余、幅二十間頗る壯觀なり

〔温泉〕本道には三十有餘の温泉あるも概ね僻地に在るを以て其名著はれず今其著名なるものを擧れば渡島の惠山湯、河汲湯、膽振の登別湯等にして河汲湯は函館を距る僅に九里半余に過ぎず

〔都邑〕札幌區は北海道廳所在の地にして土地廣濶、市區井然棊盤の目の如し戸數五千を超へ人口殆んど三萬に達せんとす官衙は北海道廳、屯田兵司令部、札幌地方裁判所、御料局支廳等あり學校は札幌農學校、北海道師範學校、北島學校を始め公私立にして十餘校あり會社は北海道炭礦鐵道會社、北海道製麻會社、札幌製糖會社等あり其他札幌病院、中島遊園、偕樂園など皆有名なり旅舍は豐平館を始め著名のもの數十あり

箱館區は渡島の箱館港に沿ひたる市街にして本邦五港の一なり故に全道の物産皆茲に輻輳し頗る繁榮の地なり此地戸數一萬三千二百餘、人口六萬三百餘を有し官衙の重なるものは函館控訴院、北海道廳支廳、稅關等其他諸會社等あり

根室は根室灣の東南岸に位し漁獵の利多きを以て居民多く戸數三千百餘、人口一萬二千三百餘を有し且つ辨天島海上に屹立し風光頗

る佳なり

●室蘭の港は海軍々港の一にして西南に繪鞆崎を控へ北に輪西山を繞らし四時風濤の患なし港口に大黒島あり燈臺を置て舶船の出入に便す本港は渡島國茅部郡森村と相對し日々濠船の往復あり距離二十二浬凡そ三時間にて到着す

●小樽は北海道中箱館に亞ぐ繁盛の商港にして戸數六千を超へ人口三萬有餘、濠船帆舶常に本州と本道の各港に往復し水運の便極めて宜し且つ其水産に富めるものは即ち本港をして益〻段富に至らしむる所以なり

●岩見澤は明治十七八年に鳥取、山口、石川、山形、島根、秋田、福岡等の諸縣より士族の移住せし所なりしが鐵道の便開けし以來各地よりの集合點となりて旅客貨物等常に輻輳し俄に繁盛の地となれり

其他石狩に石狩、日高に浦河、北見に宗谷等の名邑あり

〔古蹟〕日高國に沙流川あり其源に九郎源公義經神社あり土人義經を呼んで「ウキクルミ」と云ふ

〔沿革〕本道は上古久しく王土に歸せず景行天皇の朝、武内宿彌此地を巡視し後ち日本武尊之を征討し齊明天皇の朝、阿部比羅夫又之を討平し其後坂上田村麿、文尾綿麿等前後之を征伐し遂に王土に歸す享德年間武田信廣松前に航し爾來其子孫福山に居る時に露人の移住を防んが爲め函館奉行を置く文久二年幕府使を遣し樺太の境界を議し後ち數年を經過し樺太島を日露雜居地と爲す明治維新開拓使を置き北海道を改め又露國と議して千島群島と樺太島とを交換し明治十五年開拓使を廢し更に箱館、札幌、根室の三縣を置きて全道を分管せしめ十九年に至り縣を廢し北海道廳を置く

（鐵道）本道には炭礦鐵道及び釧路鐵道線路あり其驛名、哩程及び賃金は左の如し、但し左に掲ぐる賃金は下等賃金なり而して公衆電報取扱所の符號は（×）を用ふ

◉炭礦鐵道

●室蘭志内間

（室蘭より）

×室蘭		
幌別	七哩九十六鎖	十一錢
登別	四哩三十三鎖	十七錢
白老	十一哩八十五鎖	三十四錢
苫小牧	十三哩四十二鎖	五十三錢
追分	廿二哩九鎖	八十四錢
由仁	九哩七十三鎖	九十一錢
栗山	三哩十六鎖	九十三錢
×岩見澤	十一哩六鎖	一圓〇一錢
峯延	五哩十八鎖	七十二錢
美唄	五哩八鎖	七十九錢
奈井江	六哩七十四鎖	八十七錢
砂川	五哩十鎖	九十錢
歌志内	八哩八十鎖	九十七錢
計	百十四哩五十鎖	

●追分夕張間

（追分より）

紅葉山	十五哩十六鎖	十六錢
夕張	十一哩四十五鎖	廿九錢
計	廿六哩六十一鎖	

●手宮幌内間

（手宮より）

住吉	一哩七十一鎖	二錢
朝里	三哩廿六鎖	六錢
×錢函	五哩五十二鎖	十四錢
輕川	四哩七十一鎖	廿一錢
孕似	四哩二十鎖	廿七錢
札幌	二哩四十二鎖	三十錢
野幌	十一哩十鎖	四十六錢
×江別	一哩九十九鎖	四十八錢

幌向　五哩七十九銭　五十六銭
×岩見澤　六哩三十五銭　六十五銭
×幌内太　六哩七十五銭　七十四銭
幌内　二哩廿一銭　七十七銭
計　五十六哩一鎖

●幌内太、幾春別間

幌内太
幾春別　四哩四十九銭　六　銭

●沙川空知太間

砂川
空知太　二哩九十五銭　四　銭

◉釧路鐵道

●標茶、跡佐登間（貫金上中等なし）

標茶　（標茶より）
ニタトロマツプ　十三哩六十銭　十四銭
跡佐登　二五哩七十八銭　廿六銭

〔航路〕本道沿岸に於ける日本郵船株式會社の航路及び旅客乘船賃は左の如し、但し左表中乘船賃を二列に掲げ其右に掲げたるは上等、左は下等なり

本道西部海岸

	函館	福山	江刺	熊石、久遠	太櫓、瀬棚	奇都、歌棄	志内	古字、積丹	美國、古平	余市	小樽
函館		二、四〇 八〇	三、〇〇 一、〇〇	三、七五 一、二五	四、五〇 一、五〇	四、五〇 一、七五	四、五〇 一、五〇	五、二五 一、七五	六、〇〇 二、〇〇	六、〇〇 二、〇〇	六、〇〇 二、〇〇
福山			二、四〇 八〇	三、七五 一、二五	三、七五 一、二五	三、七五 一、二五	四、五〇 一、五〇	四、五〇 一、五〇	五、二五 一、七五	五、二五 一、七五	五、二五 一、七五
江刺				一、一〇 四〇	二、七〇 九〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇	四、五〇 一、五〇	四、五〇 一、五〇	四、五〇 一、五〇
熊石、久遠					一、八〇 六〇	二、七〇 九〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇	三、七五 一、二五	三、七五 一、二五	四、五〇 一、五〇
太櫓、瀬棚						二、四〇 八〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇	三、七五 一、二五	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇
奇都、歌棄							一、二〇 四〇	一、八〇 六〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇	三、〇〇 一、〇〇
志内								九〇 三〇	一、八〇 六〇	二、四〇 八〇	二、四〇 八〇
古字、積丹									九〇 三〇	一、八〇 六〇	一、二〇 七〇
美國、古平										九〇 三〇	一、五〇 五〇
余市											九〇 三〇

本道東部海岸

函館	茅部森	室蘭	紋別	剣路、白糖	厚岸	浜中	根花室咲、
二、五〇	一、〇〇	三、七〇	一、五〇	一、五〇	二、〇〇	二、五〇	一、〇〇
一、〇〇		一、五〇				一、〇〇	
四、五〇	一、七五	三、七五	一、七五	三、七五	三、七五	三、七五	三、七五
一、七五		一、二五	樣似、鳴泉	河、三石、			
五、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	二、〇〇
二、〇〇		二、〇〇		二、〇〇	二、〇〇		
六、二五	二、五〇	六、二五	二、五〇	六、二五	六、二五	六、二五	二、五〇
二、五〇		二、五〇		二、五〇	二、五〇		
七、五〇	三、〇〇	七、五〇	三、〇〇	七、五〇	七、五〇	七、五〇	三、〇〇
三、〇〇		三、〇〇		三、〇〇	三、〇〇		
八、七五	三、五〇	八、七五	三、五〇	八、七五	八、七五	八、七五	三、五〇
三、五〇		三、五〇		三、五〇	三、五〇		

本道小樽近海

小樽	石狩
一、一五	七五
四五	五〇
一、四〇	一、二五
五五	五〇
二、〇〇	二、〇〇
八〇	八〇
二、〇〇	二、五〇
八〇	八〇
二、五〇	二、五〇
一、〇〇	一、〇〇
三、〇〇	三、〇〇
一、一〇	一、一〇
三、七五	三、七五
一、五〇	一、五〇
四、〇〇	四、〇〇
一、一〇	一、一〇
四、五〇	四、五〇
一、六〇	一、八〇
五、〇〇	六、〇〇
二、〇〇	二、四〇
八、〇〇	一〇、〇〇
三、一〇	四、〇〇
一〇、〇〇	一三、〇〇
四、〇〇	四、八〇

厚田	浜益	増毛	留萌	鬼鹿	苫前	焼尻	鬼脇	爲泊	禮文	雅内	枝幸	紋別	網走
一、〇〇	一、五〇	一、〇〇	七五	七五	七五	一、〇〇	二、四〇	七五	七五	二、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	一、一〇
四〇		四〇				四〇	八〇	三〇	三〇	八〇	一、一〇	一、一〇	
一、七五	一、二五	一、六五	一、六五	一、六五	一、六五	二、二五	二、二五	一、二五	二、五〇	四、五〇	五、六五	五、六五	二、二五
七〇		七〇				一、六五	一、一〇	一、二五	一、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、〇〇	
二、二五	二、〇〇	二、二五	二、〇〇	二、二五	二、〇〇	二、五〇	二、七五	二、七五	二、七五	四、五〇	六、七五	七、七五	二、七五
一、一〇	八〇	一、一〇	八〇	一、一〇	八〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	二、六〇	三、四〇	四、五〇	一、一〇
二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	二、七五	三、〇〇	三、七五	三、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	三、〇〇
一、二五	一、〇〇	一、二五	一、〇〇	一、二五	一、〇〇	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、八〇	二、六〇	三、四〇	一、二五
三、〇〇	二、七五	三、〇〇	二、七五	三、〇〇	二、七五	三、〇〇	三、七五	三、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	六、〇〇	三、〇〇
一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	二、〇〇	二、六〇	三、四〇	一、一〇
四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、七五	四、七五	四、七五	五、七五	七、七五	九、七五	二、一〇
二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、一〇	四、〇〇	四、一〇	一、七五
五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	七、七五	九、七五	一一、七五	四、七五
二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	二、〇〇
七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一三、〇〇	四、〇〇
二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	三、六〇	四、四〇	五、四〇	二、八〇
九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇	四、〇〇
三、七〇	二、五〇	三、七〇	二、五〇	三、七〇	二、五〇	三、七〇	三、七〇	三、七〇	三、七〇	四、八〇	六、〇〇	七、〇〇	二、五〇
一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	二、〇〇	二、四〇	三、〇〇	一、一〇
四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、七五	四、七五	四、七五	五、七五	七、七五	九、七五	二、一〇
二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、一〇	四、〇〇	四、一〇	一、七五
五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	七、七五	九、七五	一一、七五	四、七五
二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	二、〇〇
七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一三、〇〇	四、〇〇
二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	三、六〇	四、四〇	五、四〇	二、八〇
九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇	四、〇〇
三、七〇	二、五〇	三、七〇	二、五〇	三、七〇	二、五〇	三、七〇	三、七〇	三、七〇	三、七〇	四、八〇	六、〇〇	七、〇〇	二、五〇
一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、〇〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	一、一〇	二、〇〇	二、四〇	三、〇〇	一、一〇
四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、二五	四、七五	四、七五	四、七五	四、七五	五、七五	七、七五	九、七五	二、一〇
二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	一、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	三、一〇	四、〇〇	四、一〇	一、七五
五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	五、七五	七、七五	九、七五	一一、七五	四、七五
二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	一、一〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	四、〇〇	五、〇〇	二、〇〇
七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	五、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	七、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一三、〇〇	四、〇〇
二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、〇〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	二、八〇	三、六〇	四、四〇	五、四〇	二、八〇
九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	六、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	九、〇〇	一一、〇〇	一四、〇〇	一六、〇〇	四、〇〇

本道根室近海

根室	太平洋	津軽海峡	斜里	網走	紋別	泊	國後	志古丹	留別紗那振別	択取飛別	得撫
一、二五〇	二、五〇	二、五〇	三、七五	三、〇〇	一〇、〇〇	三、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、〇〇
五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、五〇	一、二〇	四、〇〇	一、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	
西別		日高			水尻名ノ頭		三、七五	三、七五	三、七五	三、七五	三、七五
		梨			志越		泊	泊	泊	泊	泊
五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	三、七五	三、〇〇	一〇、〇〇	三、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	一、五〇	一、〇〇	四、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
				網走			一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五
							國後	國後	國後	國後	國後
六、二五	六、二五	六、二五	二、五〇	二、五〇	一〇、〇〇	二、五〇	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五
二、五〇	二、五〇	二、五〇	一、〇〇	一、〇〇	四、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
								志古丹	志古丹	志古丹	志古丹
八、七五	八、七五	八、七五	三、七五	三、七五	一二、二五	三、七五	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇	二、五〇
三、五〇	三、五〇	三、五〇	二、五〇	二、〇〇	四、五〇	二、五〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇	一、〇〇
									留別紗那振別	留別紗那振別	留別紗那振別
七、五〇	七、五〇	七、五〇	二、五〇	二、五〇	一〇、〇〇	二、五〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
									択取飛別	択取飛別	択取飛別
八、七五	八、七五	八、七五	二、五〇	二、五〇	一〇、〇〇	二、五〇	六、二五	六、二五	六、二五	六、二五	六、二五
三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
									得撫	得撫	得撫
一〇、〇〇	一〇、〇〇	一〇、〇〇	三、七五	三、七五	一六、二五	三、七五	七、五〇	七、五〇	七、五〇	七、五〇	七、五〇
四、〇〇	四、〇〇	四、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇	三、〇〇
											二、五〇
八、七五	八、七五	八、七五	二、五〇	二、五〇	一三、七五	二、五〇	六、二五	六、二五	六、二五	六、二五	六、二五
三、五〇	三、五〇	三、五〇	二、〇〇	二、〇〇	五、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇
											二、五〇
一二、二五	一二、二五	一二、二五	二、五〇	二、五〇	一六、二五	二、五〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇	五、〇〇
四、五〇	四、五〇	四、五〇	二、〇〇	二、〇〇	六、五〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇	二、〇〇

本道の人口は三十四万〇三百七十四にして平均一方里の人口は五十六に該當せり

本道の風俗は敬神の念厚く畜財の心なく其好む所は甲冑、弓矢、刀劍等の古器物なり而して男女共に勞力を同し男子は山河を跋渉して狩獵又は捕鯨の事に從ひ女子は「アッシ」織等を爲し農事には心を傾けざるが如し

〔氣候及地味〕本道は氣候の差異甚だしく西南及び東南部は稍々温暖なるも西北及び東北部は寒威凜烈にして氷雪河川を埋め殆んど人馬の往來を絶つに至る而して夏季は甚だ短く且つ炎熱なり而して全道の田畑は一万四千二百四十三町餘あり

本道は至る所山脉の蜿蜒たらざるなく然れども沿川沿海の地は廣漠たる原野に富み殊に石狩十勝等の原野は肥沃なるを以て開墾の業頗

る盛んなり

〔鑛山及物産〕本道に於ける鑛山は十餘箇所なり而して其採出の多きは石炭にして之に亞ぐものは硫黄なり

●硫黄坑の所在地は渡島の惠山、膽振の「ニセコアンベツ」釧路の「アトサノボリ」其他北見、千島等にして一年間の其採掘高は實に四百七十万七千四百九十三貫の多きに達せり

●石炭坑の所在地は渡島の石崎、後志の岩内、石狩の石狩、其他膽振、天鹽等にして一年間の採掘高は五億四千七百四十五万四千百十四斤なり

●石油坑は石狩の「シャツカリ」山及び「シュンベツ」山に在り而して金、銅の製出高は金二千五百五十七匁、銅は三千五百五十八貫なり

本道に於ける物産の重なるものは鮭、鮭、鱒、鱈、鰕、鮑、魚粕、數子、大理石、砂金、硫黄、砂鐵、河汲石、石炭、銅、臘虎、膃肭臍、鹿、水豹、鯨、檜、樺、桂、織物（アッシ）器皿（花紋を彫りたる）、棕櫚、皺類、鷲、鷹、雁、黑狐等なり

臺灣

〔位置及形狀〕臺灣は支那海上に在る一大島にして東經百二十度十五分より百二十二度四分に至り北緯二十一度五十三分より二十五度十六分に至る其地東北は八重山郡島と雲烟縹渺の間に相望み南は西班牙領の呂宋島と遠く相連り東は太平洋に面し西は臺灣海峽を隔てゝ支那大陸と相對す、島の形狀は長楕圓形にして東北より斜めに西南に蜿蜒たり

〔地勢〕一帶の大山脉極北より極南に綿亘して恰も脊骨狀を爲し自ら全島を東西兩部に分ち其形蜿蜒臥龍の如く其支脉島の内部に亘りて其大部分は嶂嶺環峙せり特に層巒峻嶂相連るは島の東部にして巍峨直に海波に接し濱海皆壁立す然れども西部は陵夷にして遠く開け以て海岸に至る而して島を南北に裁斷せる山脉は即ち東部太平洋に注ぐ河流と西部臺灣海峽に注ぐ河流との分水嶺なるを以て臺灣の河流は概して其源を中部に發して東部若くは西部に流れ以て海に注ぐ然れども地勢狹長にして内部は高山突起するが故に其長大なるもの甚だ乏しく多くは急湍の溪流にして從て舟舶を通ずべきもの幾んど希なり

〔面積及人口〕臺灣の面積は未だ其詳なることを知るを得ずと雖も大約南北百里に近く東西廣さ所四十里、面積二千五百三十二方里餘

ありと云ふ、人口も亦詳ならず嘗て二百五十萬と稱せしも今は大約三百萬と稱す

〔山嶽及原野〕島の北岸に崛起する高山は基隆山と稱し島の北門に於て航海者の羅針盤となり琉球より至るもの此山を喜望峯と爲す大屯山は其西北に峙ち高さ三千呎其西南に北淡水山あり亦高さ三千呎に及び其南に峙つを北山と云ふ遥に淡水河を隔てゝ南山（又觀音山と云ふ）南淡水山等の高山と相對し其間は一大平原を爲す、南山は高さ千九百三十呎、南淡水山は高さ千呎あり而して臺北地方の山脉は多くは火山質を帶び紗帽山の如きは四時烟を噴出す故に其近傍には數ヶ所の温泉ありと云ふ

島の東北に噶瑪蘭山あり高さ二千呎乃至二千五百呎に及び其南に蘇澳山脉あり三千呎乃至四千呎に達し其西にタンゴー山脉あ

り高さ二千呎乃至四千呎に及び脊後にシルビヤ山あり高さ一萬千三百呎其西南に綿亘せるをドット山脈（中西山脈）と云ひ高さ一萬二千八百呎に達する高峯あり山中樟樹繁茂し山脈南走して東部生蕃の中央に峙立するをモリソン山と稱す實に全島第一の高山にして高さ一萬二千八百五十呎に及び又ドット山脈の西方に在る西嶺は高さ九千呎に達して深林あり又南部鳳山の北部に翁羅、騒歌、ブレバック等の山嶺あり翁羅山は高さ千八百呎、騒歌山は高さ八百八十呎あり山嶺南走して南岬に至りて盡く

右の山脈は多く東部生蕃地方に綿亘するものにして從て東部は平原特に少なくビーナムの小平原及び其附近の溪間を除くの外は低平の地甚だ少なし然りと雖も西部地方は概ね平原にして又北部にも一帶の平地あり此平地は昔時の湖底にして湖水の壓力の爲めに南山北山

間の高地一帶に破壞せられたるものなりと云ふ

西部地方は概ね平原にして中央の山間より流出する溪流其間を流れて海に注ぎ泥土流出して海面を埋め海岸一帶概ね沙涯にして復た東岸の壁立せるが如き所なし南部鳳山地方も亦海岸の地勢は總て平坦なりとす

〔河流〕本島は河流の長大なるものなく就中稍々大なるものは北部の淡水河にして基隆、大姑陷、シンシヤムの三流臺北府の北に至り合流して一大河となり以て淡水港に至り海に注ぐもの是なり西部地方は土地平坦にして河流平野の間を縱横貫通し大肚溪、東螺溪、笨港、八掌溪等其重なるものなり又東部に在りては東加禮遠河の如き蓋し其大なるものなるべし然れども淺瀬にあらざれば則ち急流にして殆んど舟楫を通ずべからず

湖沼の内地各所に在るもの蓋し少なからざるべしと雖ども未だ詳かならず

〔港灣〕淡水港は臺北府に屬し島の北邊西岸なる淡水河口に在り河流を溯ること十里一市城あり孟甲（一に艋舺）と云ふ臺北府是なり其近地大稻埕と呼べる地にて外國人の居留せるあり滬尾は河の北岸に在る支那街にして要害の地とす佛清の役、佛のクールベー提督が艦隊を率ゐて之を攻擊し遂に之を陷るゝこと能はざりしと云ふ

基隆港は淡水の支港とも云ふべく同じく臺北府に屬し陸路一日程あり其間鐵道を通ず島の北邊に在り島中第一の良港とす東北水を隔てゝ基隆島あり古來厦門、泉州、福州、等の通商盛んなり港後に炭坑あり多額の石炭を出す打狗港は島の南邊なる西岸に在り港口に打狗山（又猿山と云ふ）あり高さ千百十呎海上無二の良標を爲しサラ

セン岬長く海中に斗出して港澳を形成せり港内深さ四尋より六七尋あり港内狹隘にして大艦亙舶を容るゝに便ならず且つ港内に淺渚ありて吃水淺き船に非ざれば入港する能はず

安平港（アンピンカウ）は臺南府の西北一里許の口岸に在り長崎より此に至る八百七十浬とす

其他雙寮（淡水の西南）、後壠、鹿子、猴樹（以上雙寮の西）、社寮（打狗の南）及び葉、青（基隆の南）等あり

〔風景〕我國古來臺灣を高砂と稱せしは往古我商人が始めて臺灣の鹿耳門に航して其海濱の風景我が播州の高砂に似たりとて之を賞し高砂と呼びしより起れるものなり其風景の美、頗る觀るべきものあることは支那の文人詞客の間に邑治八景、郡八景の稱あり、葡萄牙人が此島を「フオルモサ」（Formosa）と稱せしも亦美麗の義にして即ち

風景絶佳土壤豊美なるが故なるべし

〔沿革〕臺灣の地たる古來主宰其人なし明の萬曆中南海の盜首海澂の顔振泉なる者我九州邊海の民を率ゐ始めて之に據り自ら稱して日本甲螺（頭目）と云ふ夫の鄭芝龍は即ち其黨なり顔の死後推されて曾となり其明朝に歸服してより遂に我邊民の占ひる所となれり元和七年（明の天啓元年）閩人此地を收め安平、赤嵌の二城を置く寛文元年明の永曆十五年清の順治八年）三月芝龍の子成功（國姓爺）此地に入り閩人を掃攘し故めて安平鎭とし總稱して東寧と曰ひ敢て清朝の約束に從はず明代衣冠の俗を更めざること年あり夫の援兵を德川幕府に請ひしは即ち此際に在り成功の歿後其子經（錦舍）、孫克塽相繼て立ち康熙廿二年に至り始めて清國の版圖に歸し再び臺灣と稱す西曆一千八百五十八年（咸豊八年）英、佛、米三國の同盟を以て始めて開

港し千八百八十三年（光緒九年）安南事件に當り劉銘傳全島の兵を統ぶ時に佛軍基隆を占領し進んで澎湖島を略す後和を講じて之を復するを得たり明治七年今の西鄕海軍大將問罪の師を率ゐて蕃民を征服し償金四十一萬兩と撫恤金十萬兩とを清廷に徵して事平ぐに至れり

〔行政區劃〕臺灣は臺北、臺灣、臺南の三縣に分たれ總督府を臺北に置き澎湖列島に島廳を置き其他縣內須要の地に支廳を置けり

〔氣候〕臺灣の位置は回期線下熱帶中に在るを以て氣候炎熱にして殿冬霜雪を見ず且之に對する大陸地方よりも熱度遙に高く最高溫度百度に上り四時草木蓊欝として繁茂し空氣淸爽なりと雖も瘴癘の氣多し冬季は最も快適なりと稱す降雨の量は頗る不定にして降雨期節とも云ふ可き時なし

(物産)天然の温度高さが爲め其物産の豊饒なること實に枚擧に遑あらず今單に其目を擧ぐれば左の如し

石炭(煤炭)、硫黄、金鑛、樟腦、白糖、紅糖、茶、籾米、稭(稻)、鹽、薑、波羅蜜(波羅掛の菓實一に麪菓樹)、蘇布、椰子、橄欖、檳榔子、巴旦杏、孟宗竹、奇楠、天門冬、土茯苓、肉桂、茴香、落花生、石蘚、(馬料)鹿角菜、紫菜、南瓜、西瓜、荔枝、龍眼肉(福圓肉)、茉莉花、靛青、遏紙花、黄梨布、黄梨絲(鳳梨)、鹿皮、獐皮、香牛皮(染皮)、山馬毛(製筆)、牛筋、麝香、大腹皮、礬枝花、蜂蜜、蜂蠟、海參、魚翅、魚肚膠、紫魚、鹹魚、沙魚皮、素心蘭、等なり

(風俗)臺灣の土人は素と馬來群島より來りしものなるべく其言語、風習相類似したるもの多し淡水河畔の土蕃は男子面を黥して頷部及び下唇の中央より腮邊の間に藍線を施し婦女は耳下より頰邊に細き藍線を黥し性質厚にして農桑を務め漁獵を營み女は手工に長ぜり生蕃は暴戾掠奪を事とし各社に酋長あり

(屬島)臺灣の屬島は頗る多しと雖も今其著しきものを擧れば島西に於ける澎湖島、小琉球島及び島東に於ける小龜山島、火燒嶼、紅頭嶼等なりとす

澎湖列島は臺灣本島に高砂の稱あるに對し眞砂島と呼びたることあり列島の形狀日本に似たるものあるを以て古記には小蜻嶼の名を掲げたり此列島は本島の西方凡そ二十五哩の海中に散布せる群島にして北緯二十三度十一分半より二十二度四十七分に至り東經百十九度十九分より百十九度四十一分に至る大小六十一島あり就中大島三、澎湖島を第一とし南北長さ九哩半にして東に在り之に

次ぐを西嶼又は漁翁島とし南北長さ五哩、西に在り又之に次ぐを白沙島とし北に在り三島巴狀を爲し互に相擁して中に馬公、澎湖、大倉の三灣を形成す而して各島鎔化石より成りて一樹を生ぜず纔に馬鈴薯、玉蜀黍、落花生等を生ずるのみ島中又水に乏しく居民多く漁業を事とし乾魚を臺灣に輸出して代ふるに米、砂糖、蔬菜、藥物、茶等を以てす人口は凡そ八千あり

小琉球島は臺灣の南西岬より西北二十九哩にあり絶頂水面を拔くこと百八十呎、南北長さ二十三哩半、小龜山島は臺灣極東北翼より南西十一哩に在り其絶頂は海上を拔くこと高さ千二百呎、東部は高さ八百呎の絶壁にして島中山腹に田圃あり、火燒島は臺灣の東南岸寶藏番地を距る東十五哩にあり北翼は狹長の岬にして上に雙頭の小山あり其外部に一山あり形高塔の如し南岬を峭壁にして

海岸の民戸は竹籬を以て屋を繞らし稻田多く又穀菜の圃あり居民多く農耕を事とす人口凡そ五百許、紅頭嶼は臺灣の東南三十六海里、火燒嶼の東南三十四哩にあり長さ凡そ七哩にして番族數社あり人口千に滿たず多くは漁業を事とし又牧養を事とす然れども鷄羊豕の外他の動物なしと云ふ又此島に砂糖及び銅を產すと云ふ

旅行錦囊 日本漫遊案內 畢

附錄

◉全國官私設鐵道哩程

官設鐵道	九七九、六六哩	釧路鐵道	二六、八四哩		
日本鐵道	五九六、九三	伊豫鐵道	一〇、二四		
山陽鐵道	三二一、五九	佐野鐵道	九、六七		
九州鐵道	二七一、二六	奈良鐵道	二五、六六		
北海道炭礦鐵道	二〇四、八九	南和鐵道	一六、五〇		
關西鐵道	八一、五〇	川越鐵道	一八、二五		
大坂鐵道	四四、九八	房總鐵道	一一、九四		
筑豐鐵道	三四、一三	青梅鐵道	一三、〇九		
兩毛鐵道	五二、二一	豐州鐵道	四三、八一		
甲武鐵道	二六、九七	太田鐵道	一二、二二		
總武鐵道	三一、〇〇	南豫鐵道	六、七一		
參宮鐵道	二三、七二	道後鐵道	三、〇八		

播但鐵道	三〇、七一	浪速鐵道	八、一六
坂堺鐵道	六、二六	初瀬鐵道	一二、二一
讃岐鐵道	一〇、一九	總計（既成及工事中線）	二、九五一、六一
攝津鐵道	一四、四四	總計（既成）	二、二四四、一五

◉自東京至各地方廳地里程

札幌	二七六里	山形	九五里
京都	一三一	秋田	一五一
大阪	一四四	福井	一三七
横濱	八	金澤	一五九
神戸	一五〇	富山	一七六
長崎	三四四	鳥取	一九四
新潟	一〇九	松江	二二一
浦和	六	岡山	一八六
千葉	一〇	廣島	二三一
水戸	二九	山口	二六六

前橋	二八	和歌山	一六一
宇都宮	二七	德島	一七八
奈良	一〇〇	高松	二〇七
津	一一三	松山	二三七
名古屋	九五	高知	二三四
靜岡	四六	福岡	三〇三
甲府	三四	大分	三一七
岐阜	一二八	佐賀	三一四
大津	一〇四	熊本	三二五
長野	五九	宮崎	三六八
仙臺	九二	鹿兒島	三八一
福島	七一	那覇	五七四
盛岡	一四〇		
青森	一九二		

新潟に至る清水越は九十里、青森に至る米澤通は二百四里、金澤に至る長野通は百二十五里、富山に至る長野通は百八里なり

◉自各地至臺灣浬程

自長崎至基隆	六七七浬	自長崎至臺南	八七〇
自基隆至宇品	九六六	自宇品至臺南	一、一五九
自佐世保至澎湖島馬公灣	七六〇		

◉本邦不接海國

山城　大和　河內　伊賀　甲斐　近江　美濃　飛驒　信濃　上野
下野　岩代　丹波　美作（以上十四國）

◉本邦內最大最小國

〔最大國〕信濃　十國に界す　東西三十三里　南北四十里

〔最小國〕志摩　東西三里　南北六里

◉東京郵便電信局各地差立郵便物締切時限

東京神戸間	午前	五、〇八分	
	仝	一〇、三三	
	午後	八、四三	
東京國府津間	〔午後	三、一八分	
東京前橋間	〔午前	一一、一九	
	午後	四、一八	
東京佐倉間	午前	五、三四	
	仝	一〇、四四	
	午後	三、三九	
東京鑛山間	自四月至九月	午前五、一九	
	自十月至翌年三月	仝五、四九	瀛船送
東京木更津間	〔午前	七、一〇	
東京水戸間	〔午前	五、四〇	
	午後	五、二五	
東京千住間	午前	四、二四	
	仝	九、五六	
	午後	〇、三四	
	仝	三、〇六	
	仝	五、二六	
	仝	七、四六	

東京横濱間	午前	六、三八
	仝	八、二八
	午後	〇、三八
	仝	五、四八
	仝	一〇、二三
東京直江津間	午前	四、四一
	仝	五、一九
	午後	一、四一
	仝	二、一九
東京青森間	午後	一、一一
	仝	一、四九
東京宇都宮間	〔午前	一〇、三四
東京盛岡間	午後	六、四一
	仝	七、一九
東京仙臺間	午前	五、二一
	仝	五、五九
東京八王寺間	午前	四、一五
	仝	一〇、五九
	午後	三、五六

東京板橋間
午前 四、三六
午後 一〇、〇六
〇、四六
三、一六
五、三六
七、五六

東京中野間
午前 一〇、〇九
午後 一、四九
七、五九

東京世田ヶ谷間
午前 四、四六
午後 四、三六

◉大阪郵便電信局各地差立郵便物締切時限

大阪東京間 午前 二、二二
一〇、四七
大阪徳島間 午後 六、五四
大阪和歌山間 八、二四
午前 五、一二
午後 三、二八
大阪堺間 午前 七、四六
一〇、四七
大阪名古屋間 午前 七、四六
午後 二、二二
大阪大津間 一、五七
大阪廣島間 午前 二、二二
午後 一、五七
大阪池田間 午前 二、二二
八、二四

大阪岡山間 午前 九、二八
七、四六
大阪神戸間 一〇、四七
一二、二七
大阪奈良間 午前 二、二二
九、二八
一二、二七
三、二八
大阪洲本間 午前 一〇、四七
午後 八、二四
大阪池田間 午前 一〇、四七
八、二四
大阪傳法間 午前 一〇、四七
午後 一、五七
八、二四
大阪今福間 午前 一〇、四七
午後 八、二四
大阪守口間 午前 一〇、四七
午後 八、二四

◉小田原鐵道馬車賃金

國府津、小田原間 七錢五厘
小田原、湯本間 七錢五厘

◉自國府津湯本鐵道馬車停車場至各地人力車及駕籠賃

人力車

塔之澤迄	五錢	小桶谷迄	七十二錢
宮ノ下底倉堂ケ島迄	廿七錢	蘆ノ湯瀧坂通リ迄	七十二錢
木賀迄	三十三錢	仝　湯場通リ迄	八十二錢
小田原迄	十五錢	函根及元函根迄	七十二錢
玉垂ノ瀧迄	五錢	湯場八湯幷函根廻リ	一圓五十錢

駕籠

◉自函根宮之下至各地人足賃

函根村迄	三十五錢	蘆ノ湯迄	二十錢
姥子迄	三十五錢	御殿場迄	七十錢
函根廻リ熱海村迄	九十錢	三島迄	八十錢
小田原廻リ熱海村迄	一圓	湯本迄	廿二錢
木賀迄	十錢	小桶谷迄	十錢
道丁迄	五十錢	塔ノ澤迄	廿錢
湯本迄	廿二錢		

◉自新橋停車場至東京府下各區人力車賃

●芝區（最近三錢 最遠十五錢）
●神田區（九錢ヨリ十二錢マテ）
●淺草區（十一錢ヨリ廿錢マテ）
●深川區（十一錢ヨリ廿五錢マテ）
●麻布區（七錢ヨリ十五錢マテ）
●京橋區（三錢ヨリ七錢マテ）
●麹町區（四錢ヨリ十三錢マテ）
●下谷區（十二錢ヨリ十九錢マテ）
●小石川區（十三錢ヨリ廿二錢マテ）
●牛込區（十四錢ヨリ廿錢マテ）
●日本橋區（六錢ヨリ九錢マテ）
●赤坂區（五錢ヨリ十八錢マテ）
●本郷區（十四錢ヨリ十五錢マテ）
●四ケ谷區（十二錢ヨリ廿三錢マテ）
●本所區（十二錢ヨリ廿一錢マテ）

●大阪梅田停車場人力車賃

〔●梅田橋以北迄●曾根崎橋以西迄●於初天神西二錢〕〔●堂島大橋北東迄●常安橋北東迄●犬宮橋北西迄●檀木橋北西迄●淀屋橋北西迄●若松町裁判所北西迄●老松町大路次以西迄●北野不動寺以西迄●北野一番踏切以南迄三錢〕〔●舟津橋以東迄●敷津橋以西迄●北野萬才橋西南迄●北野九階迄●南北浦江村迄●天滿夫婦橋西南迄●偏後橋四丁目北西迄●高麗橋筋北西迄●大平橋北西迄●寺町橋西南迄四錢〕〔●新堀渡シ以東迄●宮島渡場以東迄●川口居留地一圓●江ノ子島一圓●立賣堀中橋北東迄●新一橋北西迄●久太郎町北西迄●三休橋北西迄●本町橋北西迄●内平野町松屋町北西迄●八軒座御殿筋以西迄●天滿橋筋寺町北西迄●天滿橋筋寺町西南迄●造幣局迄五錢〕〔●天滿橋四丁目西南迄●本庄村迄●心齋橋北西迄●堀江橋北西迄●高麗屋橋北東迄●玉造橋北東迄●松島千代崎橋北西迄●南本田二丁目迄●北

安治川一丁目以東迄●東横堀末吉橋北西迄●廣八橋各町北西迄●海老江村迄六錢}{●西東九條村迄●南北安治川二丁目迄●松島二丁目迄●日吉橋北詰西東迄●湊町停車場及フカリ迄●夷橋北西迄●練兵場北西迄●内久寶寺町筋北西迄●内安堂寺町松屋町筋北西迄●網島一圓●十三村一圓●幸町雜波停車場以北迄●日本橋北西迄●瓦屋橋北西迄七錢}{●南北安治川三丁目迄●朝日橋迄●岩崎新田迄●北桃谷北西迄●櫻ノ宮迄●野田村迄●長柄迄●日本橋二丁目北西●西高津村一圓●高津梅ヶ辻西北迄八錢}{●柴島村一圓●難波島迄●天王寺迄拾錢}{●北傳法村迄●湊屋新田迄●手島新田迄●稗島村迄拾二錢}{●天保山迄●瑞光寺迄拾五錢}{●天王寺農學校迄●服部天神迄拾三錢}{●清堀村迄●玉造森村迄●木津村迄●難波村迄八錢}{●安治川鐵工所迄●南傳法村一圓●三軒屋紡績所迄●今宮本村迄●日本橋四丁目迄●天王寺區裁判所西北迄●梅屋敷迄九錢}

◉全國神社統計

神宮	一	官幣大社	三四
官幣小社	八	別格官幣社	二一
國幣小社	二四	府縣社	四六〇
村社	五二、四一一	鄉外無格社	一三六、九七二
合計			一九三、四七六

◉全國寺院統計

天台	四、七九八	眞言	一二、七七七
臨濟	六、一四〇	淨土	八、三〇二
眞宗	一九、一四九	洞曹	一四、〇七二
融通念佛	三五八	蓮宗	五、〇五三
合計		法相	四五
境外佛堂		華嚴	二一
			七一、八三九
			三六、二四七

◉各宗教派の名稱

神道	神宮	大社教	扶桑教
	實行教	修成派	大成派
	黑住教		
	神習教		
	御嶽教		
佛道	天台宗	仝寺門派	仝眞盛派
	淨土宗	仝西山派	臨濟宗天龍寺派
	臨濟宗建仁寺派	仝南禪寺派	仝妙心寺派
			仝相國寺派
			仝建長寺派
			眞言宗

仝東福寺派	仝大德寺派
曹洞宗	黃蘗宗
仝高田派	仝木邊派
仝出雲寺派	仝山元派
日蓮宗	仝妙滿寺派
仝本成寺派	仝本隆寺派
時宗	融通念佛宗
仝圓覺寺派	仝永源寺派
眞宗本願寺派	仝大谷派
仝興正派	仝佛光寺派
仝誠照寺派	仝三門徒派
仝興門派	仝八品派
仝不受不施派	仝不受不施講門派
法相宗	華嚴宗

◉全國植物作付反別收穫高

	作付反別	收穫高
粳米	二、四五六、〇〇二町一	三三、五〇〇、二一一石
糯米	二六八、三六一町〇	三、四〇一、九五六石〇
陸稻	四五、一一五町〇	二九七、四九六石〇
合計	二、七六九、四七八町九	三七、一九九、六六三石九
大麥	六五三、四四三町四	七、一九六、五六九石四
裸麥	六五四、一一一町四	六、一四六、一二六石
小麥	二、三六四、五五町五	三、二九一、一四六石
合計	一、七四四、〇一〇町三	一六、六三三、八四一石
大豆	四四三、四四二町三	三、一一〇、六六五石
粟	二三九、四七〇町四	二、六一八、四七九石
合計	六〇七、七五一、五〇〇反八	一、〇二六、五七二石
實綿	七一、四三一町六	一二、五八四、八一八貫
大麻	一八、九七二町五	二、七四五、八〇二貫
苧麻	三、八七九町七	三三四、九〇二貫
合計	九四、二八三町八	一五、六六五、五二二貫
葉烟草	二九、〇五九町〇	七、六四三、二〇三貫
藍葉	四四、〇四九町五	一五、四四七、八二二貫
甘蔗	一五、二二六町五	一三二、一三八、三一六貫
合計	八八、三三五町〇	一五五、二二九、三四一貫

	作付反別	收穫高
稗	九〇、五二八町六	一、一三一、五七〇石
合計	七七三、四四一町三	六、八六〇、七一四石
黍	二七、二三八町五	八七八、二五九石
蜀黍	一五、一三三町一	一八四、三一四石
蕎麥	一六一、八七九町九	一、一五六、二六一石
合計	二〇四、二五一町五	一、一七八、一九四石
甘薯	二四三、一八〇町一	五六七、三六〇、〇六九貫
馬鈴薯	二一、九六一町五	四〇、三九一、四三一貫
菜種	一六五、四六一町七	一、〇二六、五七二貫
合計	六〇七、七五一、五〇〇反八	一、〇二六、五七二石

◉全國耕地自作小作區別

田
- 田作地 一、五四九、五七二町七
- 小作地 一、二四八、七五六、〇
- 合計 二、七九八、三二八、七

畑
- 自作地 一、四九九、四七三町六
- 小作地 七八三、二〇二、五
- 合計 二、二八二、六七六、一

總計 五、〇八一、〇〇四町八

◉全國桑畑及茶畑反別

桑畑
- 反別 一九二、四三八町九
- 見積反別 六四、五〇三、七
- 合計 二五六、九四二、六

茶畑
- 反別 三八、九三〇町七
- 見積反別 二四、七一七、五
- 合計 六三、六四八、三

山林
- 箇所 四八、六〇九
- 反別 四、四五二、九一九町〇

原野
- 箇所 四五二、一二七
- 反別 五、七八一、七七五町八

箇所合計 五〇〇、七三六
反別合計 一〇、二三四、六九四町八

◉輸出入總額(明治廿六年)

物品元價
- 輸出 九〇、四一九、九〇九圓
- 輸入 八九、三五五、三三八
- 輸出入全額 一七九、七七五、二四七
- 輸出超過 一、〇六四、五七一

金銀貨
- 輸出 一二、五九〇、五〇〇
- 輸入 一一、二九一、二八二
- 輸入超過 一、二九九、二一八

問仲卸合

◉全國問屋、仲買及卸賣商統計
- 屋 六、七四〇
- 買 二二、八五七
- 賣 三一、〇二六
- 計 六〇、六二三

附錄畢

明治廿九年五月廿六日印刷
明治廿九年六月三日發行

定價金五拾錢

編纂者　松本仁吉
京都市下京區高倉寺南通下川原東入桝屋町四十一番戸

發行者　飯田壽十郎
京都市下京區寺町通り五條上ル四橋詰町五十九番戸

印刷者　熊田宜遜
東京市神田區錦町三丁目二十五番地

印刷所　熊田活版所
東京市神田區錦町三丁目二十五番地

版權所有

發兌元　京都寺町通五條上ル　飯田信文堂

大賣捌所　東京、博文館、東京堂、哲學書院、大阪、盛文館、中村峯雄、京都、下村米吉、

大販賣所

京都東枝律番房
全　文林堂
全　信文堂山張店
大坂吉岡平助
全　藤山堂
名古屋川瀬代助
神戸船山堂
岡山武内彌三郎
廣島積善館支店
津川島九右衛門
大津太田支店
岐阜文港堂
奈良文堂
高松宮脇開益堂

販賣所

京都福井源次郎
全　破業社
全　大谷仁兵衛
全　田中治兵衛
全　村上勘兵衛
全　五車樓
全　大黑屋
全　興敎書院
全　福井品川太右衛門
全　大津東枝支店
全　法藏館
全　山田直三郎堂
全　便利堂
全　川勝德次郎
大坂岡島甚七
全　松村九兵衛
全　岡本仙助
全　足利商舍
全　小濱吉岡正太郎
全　宮津屋番頭
全　高山中田橋
全　金澤雲海堂
全　小松改造堂
全　福井品川太右衛門
大津東枝支店
廣島文明堂
尾道春陽堂
全　蓬山堂
全　大谷仁兵衛
全　田中治兵衛
全　村上勘兵衛
全　五車樓
大坂岡平助
全　信文堂山張店
全　藤山堂
名古屋川瀬代助
神戸船山堂
岡山武内彌三郎
廣島積善館支店
津川島九右衛門
大津太田支店
岐阜文港堂
奈良文堂
高松宮脇開益堂

萬國第壹等之良劑發賣廣告

清國蘇州誦芬堂主人調劑

●肺病　●胃病　●熱病　●腫物　●梅毒

萬國第一
登錄
虔脩六神丸
指猥

●赤病　●下痢　●子宮病　●臟病

●其他これらさうには特効あり

定價
一粒入　金拾錢
二粒入　金拾八錢
三粒入　金廿五錢
五粒入　金四拾錢
五拾粒入　金一圓四拾錢
拾粒入　金七拾五錢
拾貳粒入　金一圓
金三圓

發賣本舗　京都五條室町　龜田利三郎

御料理
御旅館
京都市猪熊通出水北に入
萬亀樓

やきとり
鳥一式は何にても御座候
京都下京
すはの町五條北へ入
末廣
弊店開業以來日未だ浅きにも拘はらず四方御客様の御引立により日増に繁栄仕候段厚く御礼申上候就ては其御引立に組ひん爲め今般一層勉強仕り品物及び御待遇向きは勿論凡ての事に注意はり各室には電話と設けて御用召の御便利と謀り又た早朝より丁子風呂を沸して御一浴に備へ置候間尚不相変御來車の程奉待候

旅宿
京都市麩屋町通御池北え入東側
若彦事
大谷健造

西洋入歯
并ニ
歯牙全般治療
京都市上京今出川大宮西
佐山歯令堂

歐米各國雜貨
東京小間物類
さるや製楊枝歯磨
笠仙浴衣地
はかた腰帶いろ〳〵
幷に
貴金銀諸細工物
御好に應す
京都市四條通御幸町西へ入
丁子屋事
土田商店

南禪寺
松林瓢亭

各國時計類
附屬品種々幷ニ直シ物入念ニシテ
右一層廉價ニ賣場仕候条不相変御引立を乞ふ
京都市四條通御旅町
松邨皆春堂

旅宿
京都祇園小堀袋町
月の家

生命保險

京都市堺町通夷川北入

京都生命保險株式會社

◉本社は京都府下重要物産七組合の工業發達の目的を以て組織す

◉本社は終身。養老。定期。年金。修業。養育等の保險を爲す

◉本社の保險料は衡平を主とし何人に限らず何業務を問はず保險料に差異なく其拂込方に年掛。半年掛。三月掛。月掛の内契約人の便宜により隨意たるべし

◉本社は工業修業者の便宜を計り保險金額拾圓より契約す

◉本社は日曜日と雖も申込を受け毎日躰格診査を爲し又申込人の望により何時にても請求の場所に附き出張診査の契約すべし

◉顧問醫　齋藤仙也　馬杉則知

八

飯田信文堂發行書目

京都名勝案内記

附聯合府縣

全一冊紙數三百五十頁名勝寫眞銅版畫九十六景挿入

上製定價四十錢並製三十錢

日本は世界の美術國にして京都は日本の公園と稱せらる、されば天然と人爲との美觀は、此地に集まらぬといふものなく、加ふるに千百年來の舊都として、名蹟靈地頗る多く、以て山水の明媚を助く、内外遊客の必ず一たび筇を曳かざる者なき向に故あるかな、本書は精巧の圖と明確の説明とを以て之が案内を詳述し、傍ら近傍各府縣にも及びたれは京都に遊ぶ人固より携へさるべからずして、其未た到る能はざる者も亦臥遊の料に供すべきなり

京都市街新地圖

附接近書郡村

舶來モソ紙摺大判

一折定價金貳十錢

九

生命保險

京都市堺町通夷川北入

京都生命保險株式會社

◉本社は京都府下重要物産七組合の工業發達の目的を以て組織す

◉本社は終身。養老。定期。年金。修業。養育等の保險を爲す

◉本社の保險料は衡平を主とし何人に限らず何業務を問はず保險料に差異なく其拂込方に年掛。半年掛。三月掛。月掛の内契約人の便宜により隨意たるべし

◉本社は工業修業者の便宜を計り保險金領拾圓より契約す

◉本社は日曜日と雖も申込を受け毎日躰格診査を爲し又申込人の望により何時にても請求の場所に附き出張診査の契約すべし

◉顧問醫

齋藤仙也

馬杉則知

飯田信文堂發行書目

京都名勝案内記

附聯合府縣

全一冊紙數三百五十頁名勝寫眞銅版畫九十六景挿入

上製定價四十錢並製三十錢

日本は世界の美術國にして京都は日本の公園と稱せらる、されば天然と人爲との美觀は、此地に集まらぬといふものなく、加へるに千百年來の舊都たりしもの、名蹟舊地頗る多く、以て山水の明媚を助け、内外遊客の必ず一たび筇を曳かざる者なき所に故あるかな、本書は巧の圖と明瞭の說明とを以て之が案内を詳述し、傍ら近傍各府縣にも及びたれば京都に遊ぶ人固より携へざるべからず、其未だ到る能はざる者も亦以遊の料に供すべきなり

京都市街新地圖

附接近郡村

舶來モソ紙摺大判

一折定價金貳十錢

京都は最る遊覧の勝に富みて名區舊跡實に擧けて數ふへからす、地圖に就て之を指す、始めて閭夜明燭を得るの感あるべし、案内記と相俟て必要缺くへからさる者なり、

江村秀山著

歴世大谷派御法主實記

附御本山案内記

全一冊紙數貳百廿頁
石版密畫五景挿入
定價金貳十錢

末法燈明記論讃

菊版紙數八十頁
全一冊定價五錢

禪門諸大德題序

『禪宗』編輯局著述

一休禪師

全一冊洋裝美本
菊版紙數五百廿六頁定價金五拾錢郵送料八錢

本書目次

●緒言 ●第一誰ぞ一休禪師とは（冒頭に一休禪師を概論し併せて其俗姓を敘す） ●第二禪師の稟性（其天才稟性を寫し來る筆端光を生じて禪師の快なる資性紙上に躍然たり） ●第三禪師の法系（禪とは何ぞや。沒絃の琴、無孔の笛。禪に非れば此力量を得る能はず。大機大用は禪より來る。 ●第四大機大用（圓轉活脫なる禪師の機緣問答を網羅し且つ光德の事例を擧け來りて禪師の力量の特に偉大なりしを示す） ●第五禪師の藻才、謠曲。繪畫。 ●第六禪師の參徒（禪師に參じたる珠光其他の機緣及び小傳を載す）、茶と禪の關係を論す。 ●第七禪師の交友（蓮如上人其他交友との關係を敘述す） ●禪師の著書（法語、文、詩偈等を網羅して遺すなし）。

誰そ、一休禪師とは。曰く身は帝王の胤に生れたりしに拘はらず夙に桑門に入りて俗臭八十餘年の間世塵を蹈せず形骸を修せず生を三衣一鉢に托して只管佛祖の道を光揚し其言動活潑、其用處峭峻、或は熱罵、或は諧謔、或は野干鳴、或は獅子吼、光に和し塵に同じ、物に接し機に應じて圓轉活脫殆んと端倪すべからざる卓牢不羈の言行を以て一世を振昇したる狂雲子其人也

禪門の英傑たる狂雲子一休禪師を完全に傳せるもの未だ之れあらず「一休諸國物語」「繪本一休譚」「一休御一代記」「一休噺話」等ありと雖も此等は皆天涯杜撰にして事實の眞を錯れるのみならず概ね突梯的言行を高説を附會し以て禪師を嘲ゆる者なしと雖も其記叙簡略にして其「代記」ありと雖も其記叙簡略にして其「代記」を盡さず是を以て著者は多年之を慨き親しく酬恩庵「禪師示寂の寺」及び興球菴「禪師開創の寺」等に就き二菴の懇到なる助力を得て其實跡を取調べ又廣く群籍を渉獵して參考に資せしもの枚擧に遑あらず茲に始めて本書を公にするに至れり此故に本書は博引旁搜、記叙精確、從上諸傳の傳にあらず希くは大方の諸士必ず本書を繙て禪門の英傑一休禪師の眞の面目を看取せよ

發兌元　京都市寺町通五條上ル町　飯田信文堂

71
70

023042−000−2

71−70

日本漫遊案内（旅行錦嚢）

松本　謙堂／編

M29

ADB−1012